

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796100069		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ泉ヶ丘 (1F ヒスイ)		
所在地	大阪府堺市中区深阪713-1		
自己評価作成日	平成22年7月16日	評価結果市町村受理日	平成22年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2796100069&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2796100069&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年8月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ニチイのほほえみ泉ヶ丘では、『思いやりを大切にし、その人の世界に寄り添います。その人の喜怒哀楽を大切にできるアットホームな場所を目指します』という理念のもと日々運営しています。最近では毎月の行事、外出に力を入れ、入居者様に普段のホームの生活とは違う雰囲気味わってもらえるように職員一同工夫しています。入居者の希望に添えるよう少人数での外出を増やしています。日々の生活では特に何か特別なことを取り入れず、隣の公園への散歩や歌を唄ったり、ビデオを観たり、体操をしたりと穏やかな生活を心掛けています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは住宅街の中にあり、ホーム前にある整備された公園では日々散歩に出かけ犬を散歩する様子や子供たちが遊ぶ様子を見る事で癒しの場となっています。子供たちから言葉を掛けてもらったり、挨拶を交わすことで地域の方との関わりを少しずつ持てるようになってきました。また、家族からもっとホームの事を地域の方にも知ってもらいたいと提案があり、見学会のパンフレットを家族が準備して下さる等家族との協力体制も得ながら地域に溶け込めるように努力されています。管理者は利用者と接するときには常に自分の祖父母と思いつつ愛情を持って接するように職員に伝え、会話を多く持つことで利用者の表情も穏やかで毎日楽しく過ごされているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を作りましたが、地域との関わりを理念に盛り込むには至っていません。 私達が介護に関わる姿勢について重きを置いた理念です。	ホーム独自の理念は、職員からアンケートを取り意見を聞きながら管理者と各リーダーがまとめて作りました。アットホームな場を目指すホーム理念には、地域との繋がりがりや関わりを大切に考えていますが実践するには至っていません。朝礼時には職員が共有するために唱和して玄関や休憩室に掲示しています。	皆で作上げた理念をに地域との繋がりがりや大切にしていること、思いをどう結び付けられるかなど皆で再度検討されてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	なかなか出来ていない状況です。現状は毎年行なわれる地域の盆踊りに参加するくらいです。今後避難訓練への参加や地域住民の方々にホームのことを知ってもらいたいので見学会の実施を予定しています。	地域の盆踊りに浴衣を着て参加したり、日々の散歩や買い物で出会った地域の方々と挨拶を交わすなど、少しずつ関わりを持つことが出来るようになりました。また、家族会でホームの見学会実施の提案があり地域の方にパンフレットを配る等準備しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記と同じくできていない状況です。地域のネットワークの会合には、管理者が参加しています。少しずつ貢献できればと試行錯誤中です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で頂いたご意見は、すぐに改善・実行できなくても、なるべく取り入れるように努力しています。地域住民への見学会も会議で頂いたご意見でした。	家族や民生委員、地域包括支援センター職員、他事業所管理者等が参加する運営推進会議を、2カ月に1回開催しています。ホームの状況報告を行い、参加者から多くの意見もあり活発な意見交換の場になっています。出された意見は改善策を話し合い取り組んでいます。また、他事業所の参加もあることで色々な情報を得る事が出来有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政が実施する研修にはなるべく参加しています。また保健センター等に、入居者様のことを相談し助言を頂くこともありますが、密な関係作りには至っていません。	相談すること等がある時には、直接本庁に出向いています。また、市からの研修案内が届いたら出来るだけ参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠していません。6月に身体拘束・高齢者虐待についてホーム内で研修を行ない、スタッフが正しい知識を得るよう努力しています。ただ身体拘束委員会は全く機能していないので、今後の課題であります。	内部研修を行い、マニュアルにそって身体拘束をしないケアについてや具体的な事例を用いて身体拘束の理解を深めています。玄関やユニット入口は施錠せず、センサー対応で自由な行動を支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記にあるように、6月に研修を行ないました。スタッフが一人で思いつめない環境作りを心掛けて行きたいと思えます。		

ニチイのほほえみ 泉ヶ丘 (1F ヒスイ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、権利擁護を利用する入居者がいないため、研修の機会は設けておりません。管理者は市の研修があれば参加を予定しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は、噛み砕いて分かりやすいように伝えるように努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一昨年から会社の運営の変更説明で家族会を実施してきましたが、今春初めてホームとしての家族会を実施しました。まだ要望を聞けるまでには至っていませんが、第一歩として今後も継続していきたいと思ひます。またアンケートを定期的実施するなど工夫も試みたいと思ひます。	家族の来訪時には意見や要望を聞くようにしています。出された意見は、職員で改善策に取り組み内容によってはホーム便りに載せる事もあります。年に2回開催される家族会では認知症についての話をすることで、家族同士の共感に繋がりました。また、運営推進会議に参加出来なかった家族には会議録を送付しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者の力不足で、職員の意見、提案を反映するまでには至っていません。職員が自主的にホームの運営に関われるよう努力していきたいと思ひます。	各リーダーが職員からの意見や提案を聞いています。出された意見は、管理者から職員に伝え統一できるようにしています。また、管理者はいつもと違った様子が見られた時には職員に声かけして、その思いや意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社の制度としては、キャリアアップ制度というものがあります。ホームとしては、職員が認知症介護に関して向上心を持って携わることができるような支援ができないか試行錯誤中です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社としては、管理者、ユニットリーダー、計画作成担当者には定期的に研修を行なっています。職員には入職時に新人研修を実施しています。ホーム内研修は月1回実施中です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、2ヶ月毎に開催される地域のグループホームの交流会に参加し情報交換を行なっています。また定期的に他のホームの運営推進会議にも参加させて頂き、互いの活動内容に刺激を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安で何か訴えられた時は、そばに寄り添いその人の思いに耳を傾けるように努めています。入居者が訴える職員に偏る時があり、日によっては聞けていない事もあります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と連絡を取ったり、来られた際にお話する機会をもつよう心掛けています。ただご家族が職員に気を遣って本音を言ってくれてないと感じることもありますので、今後もご家族との信頼関係作りは課題です。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態を把握し、福祉用具の導入をするなどの対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側の関係を壊そうと入居者に頼ったり支援方法を工夫していますが、入居者の中には気を遣っている方もおられます。そのため思いを引き出せていないと思う時もあります。職員一人ひとりがその方と深く関わりを持つように心掛けていきたいです		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告をしています。面会に来られないご家族にもお便りで報告しています。入居者のことに関しては、一緒に考えて下さるご家族も多く、協力的です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来てもらえる雰囲気を中心掛けています。ただご家族以外は足が遠のいている状況です。	友人や親戚などの訪問があります。今後、趣味のカラオケや華道等継続して参加できる場所に個別で支援していきたいと考えています。また、墓参り等の馴染みの場所への外出も支援していきたいと考えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士でお話しされる機会は増えてきました。帰宅願望のある方に他の入居者が声を掛けてくれて安心されています。話しの輪の中に入っていけない方もおられるので、スタッフが間に入ったり配慮をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時ご家族には『何かあれば相談下さい』と伝えてあります。退去後お便りを郵送していますが、関係性の継続には至っていません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し把握に努めています。普段の何気ない会話の中での言動に心をとめて、できる限り実現に向かうように心掛けています。	入居前に利用者や家族に生活歴や習慣などを知るためにセンター方式を記入してもらっています。入居後は家族に電話で尋ねたり、利用者と日々一緒に生活する中で、会話を多く持ちながら希望や要望を聞いています。知り得た情報は、日付を入れ、色を変えて追記し職員は共有できるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族にセンター方式を記入して頂いています。センター方式を活用し生活歴を職員間で共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員とカンファレンスを開き話し合っています。突然状態が変化した方に関しては、申し送りを徹底しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりと常に会話を通じて、今何がしたいのかを理解するように努めています。介護計画作成に関しては、ご家族様の意見が聞けない事が多いです。	来訪時、家族にケアプランを見てもらい希望や要望がないか聞いています。3カ月毎にモニタリングや評価を行いカンファレンスを開催し全職員の意見を取り入れ見直しに繋がっています。また、状況に変化があればその都度変更し、必要があれば医師や看護師の意見も取り入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何ができて何がもう難しくなってきたのか等、気付いた事や発見した事を記録に記入し、職員間で情報共有できるように心掛けています。変化があった場合は、カンファレンスをして皆で話し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	喜怒哀楽を理解し、入居者一人ひとりの個性を大切にしよう心掛けています。帰宅願望のある方には、息子さんに協力してもらいお手紙を書いてもらうなど工夫しています。		

ニチイのほほえみ 泉ヶ丘 (1F ヒスイ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園での近所の方との触れ合い、地域の盆踊りへの参加し暮らしを楽しむ事ができるように支援しています。ただ地域との交流はまだまだ密ではありません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身に変化があれば、主治医、ご家族に報告しています。	入居時に、今までのかかりつけ医が継続できることを説明し希望に応じています。協力医の往診が2週間に1回あり、訪問看護と24時間連携を持ちいつでも相談できるようにしています。また、毎週、訪問歯科と歯科衛生士の往診を受けたり必要に応じて眼科受診ができるようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっています。記録をとり、看護師に気軽に相談できる環境です。往診医と看護師の事業所は違いますが、連携を取り合ってくれていて安心です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院には、ホームの受け入れ条件を説明し、早期に退院できるようお願いしています。退院時はホームの主治医の情報を頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだまだ終末期のことを早期からご家族とお話するには至っていません。今後の課題です。	入居前に法人の重度化した場合の対応の指針を説明しています。家族の希望があれば医師や看護師、家族、職員等が交えて話し合い支援していきたいと考えています。また、職員も看取りについて話し合う場を設け個々の思いや気持ちを伝えあい、皆で支援していこうと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や応急手当等のホーム内の勉強会に参加し、冷静に対応できるよう心掛けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しています。ただ地域との協力体制はまだ築けていません。	年に2回消防署立ち会いのもと、避難訓練をしています。訓練の前には地域の方に声をかけ、訓練当日は近隣の方と一緒に消火器の使い方等を訓練しました。また、2カ月毎にもホーム独自で訓練を行い回数を重ねる事で職員の意識が変わってきました。運営推進会議でも話題にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年齢や家庭環境などを考えて話しの内もその方に合った話をするように心掛けています。	利用者と接する時や声かけする時には、常に愛情を持って接するように心がけています。その人に合わせた対応が出来るように配慮しています。また、不適切な対応等が見られた時には、その都度注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外へ行きたいと言われたら、買物外出に行ったり、近くの公園に散歩に出掛けたりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何か訴えがある時は、職員は仕事の手を止めてお話を伺うようにしています。しかし業務に追われできていない時もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	食べこぼし等で汚れた場合は、着替えをして頂きます。外出時はその方のお気に入り洋服を着てもらえるように支援しています。また男性の方は毎朝髭剃りは日課です。ただ、破れた衣類など補修できていないこともあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理をすることはほとんど出来ていません。買物外出で食べたい物を選んでもらったり、メニューのリクエストも伺うように努力中です。食事の配膳やテーブル拭き、食器拭きを一緒にして頂いています。	週4回は業者による献立で食材も配達してもらっていますが、週3日は利用者の希望を聞きながら買い物に行き食材を選ぶ楽しみを作っています。野菜の下準備、配膳やテーブル拭き、食器洗い等できる方と一緒にしています。また、職員も同じテーブルに着き、弁当持参で楽しい時間を作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食はパンや粥などその方の好みの物を提供しています。水分は声かけをこまめに行ない、トロミをつけたりゼリーにしたり工夫をしています。食事もその方の状態に応じて刻んでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後は歯磨きの声掛け、介助をしています。入れ歯の清潔管理にも努めています。		

ニチイのほほえみ 泉ヶ丘 (1F ヒスイ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は気持ちよくトイレで排泄できるように、時間を決めて失敗のないようにトイレ誘導をしています。1人介助が無理な方も2人介助で誘導し、トイレで排泄できるよう支援しています。	排泄表を利用しながら、声かけや誘導をしています。おむつを使用していても日中はトイレで排泄が出来るように取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ラジオ体操をし、体を動かせる時間を提供したり、水分を多く摂って頂けるように声掛けやゼリーを提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人が拒否された場合は、無理強いせず一人ひとりその時の状況に合わせて入浴して頂いています。入浴剤を入れたり、季節でゆず、菖蒲などを入れます。また入浴中は1対1なので、会話を楽しんだりします。	毎日14時から17時位まで準備しています。毎日入浴される方もおり、現在は拒否されることなく入りたい気持ちを優先しながら入れるようにしています。利用者の肌に合わせたシャンプーやボディーシャンプーを用意し、安心の入浴につながるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は1時間毎に巡回しています。季節に応じて冷暖房の調整をしています。その方の状態やその日の様子で日中でも横になって休んでいただけるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局との連絡ノートを活用して薬を理解するよう努めています。ただ全職員が全ての方の薬を把握するには至っていません。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯干し、洗濯たたみ等を手伝って頂き役割をもっていうという思いを感じて頂けるように心掛けています。男性の方には、テーブル拭きや庭の草むしりを一緒にしてもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は近隣の公園へ散歩や買物に出掛けています。公園では近所の方に声を掛けて頂き交流を楽しんでいます。喫茶店への外出や花園等へ出掛け気分転換を図れるようにしています。また会話の中から行きたい所を聞きだせるように努めています。	ホーム前に公園があり日々散歩に出かけています。犬の散歩や子供たちが元気に遊ぶ様子を見ながら挨拶を交わし、言葉を掛けてもらう等が楽しみとなっています。また、毎月個別やユニットごとでスーパーに買い物に出かけたり、カラオケ、銭湯、喫茶店、花見等希望を聞きながら出かけられるようにしています。	



ニチイのほほえみ 泉ヶ丘 (1F ヒスイ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の所持はできません。お金は事務所で管理しています。買物で一緒に出掛けた際は支払いを一緒に行なっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方には使用できるように援助をしています。またその際プライバシーを配慮し居室でゆっくりをお話できるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間に居間とトイレ掃除、昼間に居室の掃除をしていますが、やはり汚れはみられません。庭で育てた花を飾ったり、季節感のある置物や飾りつけを行なっています。	リビングは明るく行事の写真や季節の飾り付けをしています。廊下には椅子やソファを置き一人になれる空間や利用者同士で楽しく話が出来るように置かれています。また、ウッドデッキでは花を植え、玄関には職員の手作りの作品や、季節の花を活着しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の相性に合わせた座席を考えています。ただ特定せず自由に座って頂けるようにも心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には入居の際、慣れた家具を置いていますが、家具が少なく、殺風景な居室が多いです。しかし家族写真や馴染みの小物、ご自信の作品などは飾るようにしています。	出来るだけ今まで使っていたものを持ってきてもらうように家族に伝えています。ベッドや椅子、ラジカセ、裁縫道具、鞆等を持ち込み、ぬいぐるみ、利用者が書かれた自画像等が飾られています。入居後も家族に慣れ親しんだものや家族の写真を持ってきてもらっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には物を置かないようにしています。椅子に配置には工夫しています。出入り口付近や洗面所横に椅子を置き、いつでも腰掛けられるようにしています。		